

保小中高合同避難訓練

中央保育所、入野小学校、大方中学校および大方高校の全園児・児童・生徒らが5月16日(火)、合同避難訓練を行いました。

この訓練は、避難場所の確認をするとともに、被災時に適切な避難行動をとる力を身につけることを目的に、平成24年から年に1回実施されています。

当日は、午前9時45分に地震が発生するという想定で訓練を実施。揺れがおさまった後、子どもたちは互いに声を掛け合いながら、錦野児童公園まで避難しました。



避難を行う子どもたち

は、「避難時、道が狭くて塀が近いから、倒れて来たら危ないと思った」と話しました。

おはなし玉手箱が「子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」受賞を町へ報告

おはなし玉手箱が「令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰」の団体部門を受賞し、5月19日(金)、町長らへ報告に訪れました。

同賞は、子どもの読書活動の関心と理解を深め、積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進している学校、図書館、団体・個人を表彰するもの。同団体がこれまで取り組んできた、紙芝居作成や町内各所での読み聞かせ公演の活動が評価されました。



報告に訪れたおはなし玉手箱の皆さん

方々が残してくれた話が今に伝わっているように、現在の町の姿を将来の子どもたちに残していく紙芝居を作っていきたい」と話しました。

内閣府防災担当大臣が町を視察

4月15日(土)、谷公一内閣府特命担当大臣(防災、海洋政策)が来町し、「南海トラフ巨大地震に係る防災対策に関する現地視察」が高知市および黒潮町で行われました。

黒潮町では、佐賀地区津波避難タワーや、平成28年に開催された「世界津波の日」高校生サミットの会場となった大方あかつき館などを視察しました。その後、本庁舎で谷大臣、濱田省司知事、高知市の岡崎誠也市長、四万十町の中尾博憲町長および松本敏郎町長らによる意見交換会が行われました。



視察の様子

谷大臣は、「住民の命を守るため、総力をあげて取り組んでいることを実感した。」「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」の見直しにしっかりと反映し、より充実した対策を進めていきたい」と話しました。

市野々川でタケノコ掘り

4月15日(土)、市野々川地区で、タケノコ掘りと四国電力佐賀発電所見学が開催され、17名が参加しました。

同イベントは、「小さな集落活性化事業」の一環で、地域資源を活かしながら交流人口増加をめざすことを目的に、市野々川釣りクラブが主催し、開催しました。

タケノコの穂先を見つけると子どもたちは夢中になって掘りだし、大きなタケノコを抱えて満足そうな笑顔を浮かべていました。当日は30本ほどのタケノコを収穫しました。また、タケノコ掘りの後は婦人部が準備したタケノコご飯、みそ汁、イタドリ炒め物など市野々川の恵み満載の昼食を楽しみました。



参加者の皆さん

参加者は、「タケノコ掘りも発電所見学も面白かった。地元の人のおもてなしがすごくてたくさんご馳走になった。自分の地区でも何かできればと思った」と話しました。